

答え合わせ・解説

問1	答え 1 万葉集	天平文化を代表する作品であり、漢字の音や訓を借りて日本語を表記する「万葉仮名」が用いられている。後の平安時代に編纂された勅撰和歌集と比較して、素朴で力強い感情を詠んだ歌が多いことが特徴である。
問2	答え 1 仏教の力で社会の不安を払拭しようと考え、国家的な大事業を通じて中央集権体制の強化を図った。	聖武天皇は、地震や天然痘の流行といった国難を仏教の信仰によって乗り越えようとした。この巨大プロジェクトには膨大な労働力と物資が投入され、山口県の長登銅山から銅を運ぶなど、全国規模の協力体制が敷かれることで、天皇を中心とする国家体制が象徴されました。
問3	答え 1 全国への国分寺・国分尼寺の建立と、東大寺での大仏造立	聖武天皇は、地方の行政単位である各「国」に国分寺と国分尼寺を建てることを命じました。そして都の東大寺に巨大な仏像（大仏）を造立することで、中央から地方まで仏教の力を行き渡らせ、国家の平安を祈願しました。これは貴族の権力誇示や外交交渉の円滑化が主目的ではなく、宗教的な権威による社会の安定を目指したものでした。
問4	答え 1 正倉院	聖武天皇の死後、光明皇后がその遺愛品を東大寺に納めたことが始まりです。校倉造という高床式の構造により、湿気などから宝物が守られてきました。法隆寺金堂は世界最古の木造建築群の一部、登呂遺跡は静岡県にある弥生時代の遺跡です。
問5	答え 1 地方の特産物を納める調、都での労役に代わる布を納める庸、地方での労役である雑徭、そして兵役	律令制における税負担のうち、田地に対して課せられる「租」は男女ともに課せられましたが、それ以外の「調（特産物）」「庸（都での労役の代わりに布）」「雑徭（地方での労役）」「兵役」などは主に男子に対して重く課せられていました。そのため、これらの重負担を避ける目的で、戸籍を書き換えて男子を女子と偽る「偽籍」が増加し、国家の財政や軍事体制に影響を与えました。
問6	答え 1 律令	大陸の先進的な統治システムを導入することで、国家の基盤を固める目的がありました。「律」は社会の秩序を乱した者への刑罰を定め、「令」は官僚組織や税制、土地制度などの行政上のルールを定めたものです。これらが組み合わさることで、天皇を頂点とした統一的な支配が可能になりました。
問7	答え 1 条里制	古代の日本で行われた土地区画の仕組みを条里制といいます。六町（約650メートル）四方の「里」を基準に、さらに細かく格子状に区画して土地を管理しました。墾田永年私財法によって成立した東大寺などの荘園でもこの仕組みが用いられており、その整然とした区画のなごりは、現在でも日本の各地で水田の境界線として確認することができます。
問8	答え 1 国司は一定の任期ごとに都から派遣される官吏であり、郡司は代々その土地を治めてきた有力豪族が任命される役職であった。	国司は中央政府（都）から派遣された官僚で、任期が終われば都に帰ります。これに対し、郡司は現地の有力豪族（かつての国造など）が任命され、その地位は多くの場合で世襲されました。このように、中央から派遣された役人と現地の有力者を組み合わせることで、地方統治の安定を図ったのが律令国家の特徴です。
問9	答え 1 都での労役の代わりに布を納める庸や、地方の特産物を納める調の負担が、主に成人男性に課されていたため。	律令制下の税制において、布を納める「庸」や特産物を納める「調」、さらには兵役などは、主に成人男性（正丁など）に対して重く課されていました。一方で「租」は男女ともに課されましたが、負担は比較的軽いものでした。そのため、人々は重い税負担や兵役から逃れるために、男子を女子と偽って戸籍に登録する「偽籍（ぎせき）」を行いました。その結果、資料のように女子の数が極端に多い記録が残ることとなりました。